

暗唱聖句

多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである

マルコによる福音書 10章 45節

ねらい

受難の期節である事を頭においておく。

神の子、主イエス様が受難されたことを覚える。

三度にわたる受難予告での、イエス様の真剣さと、弟子たちの無理解を考える。

説教作成のヒント

- ・ 受難予告は、3箇所とも、弟子たちの無理解、そういう弟子たちへの教え、と組み合わせて語られます。ここでは、ゼベダイの子らの無理解と、あなた方の間での人間関係というテーマが、受難予告と組み合わせられている。
- ・ 「栄光をお受けになるとき」とゼベダイの子らが願った時、その栄光は、神の栄光ではなく、人間的な栄光であった。ここに、無理解がある。
- ・ 「人の子は仕えられるためではなく仕えるために来た」というイエス様のみ言葉は、イエス様が人々にかかわる仕方の基本として受け止められる部分。

豆知識

- ・ 引き渡す（パラディドミ）という言葉は、与える（ディドミ）という言葉に内を含んだ単語である。自らすすんでという意味合いが読み取れる。
- ・ 当時の支配者であるローマ人は、民主的な考え方を持っていたが、貴族と平民、市民と奴隷という身分の区別には、厳密だった。すべての人の僕という部分は、また、すべての人の奴隷とも訳すことができる。
- ・ 身代金に関しては、出エジプト記に、奴隷の命の代償として、銀30シケルの規定がある。これと、イスカリオテのユダが受け取った銀貨30枚とが関連してくる。

説教

イエス様のお弟子さんの中で、誰が一番偉いのでしょうか？本当はみんなお弟子さんなのですから、同じ、というのが正解ですね。でも、ペトロさんは、一番弟子ということで、何でも一番に始めたり、お弟子さんたちの代表をしたりと、ちょっと他の人より偉いように見えます。

ヤコブ、ヨハネ兄弟は、この事が少々面白くありませんでした。一番弟子といっても、イエス様にお会いした時は、ペトロだってヤコブやヨハネと同じ時、同じガリラヤ湖のほとりでの出来事でした。一晩中お魚が採れなくて、疲れきっていたのも同じ、イエス様に、「もう一度漁をしてみなさい」と言われて、網をうち、大漁だったのも同じです。そうして、一緒に、同じように「人間をとる漁師になる」と言われたのです。そういう意味では、ペトロが一番なら、自分たちも一番、とつい思ってしまいます。

でも、一番が偉いのは、人間の世界だけで、神様の眼から見たら、一番でも二番でも、ビリだって関係ないのです。むしろ、「一番になりたい人は、ビリに並びなさい」とイエス様は言われます。

言葉では分かっている、でも、「やっぱり一番がいいな」と思う心は止められない時があります。ヤコブ、ヨハネ兄弟も同じでした。しかし、「私たちを一番にして」とは言いにくいですね。そこで、イエス様が、エルサレムに向かうと話されたとき、ちょうどそこにいた二人は、「先生の右と左に私

たちを」とお願いしたのです。先生の隣だったら、ほら、一番前になるじゃありませんか。

でも、このお願いには、二人にもよく分らないような深い意味があったのです。イエス様は、エルサレムで十字架につけられます。そしてその右と左には、別の十字架が立てられ、別の囚人が死刑になっていったのです。もし、この十字架を選んで「右、左」と言ったとしたら、ヤコブ、ヨハネ兄弟は立派ですね。でも、そこまでの意味はなかった証拠に、二人はイエス様が逮捕された時に、逃げ出してしまう。イエス様が奴隷のように身を投げ出して、みんなを救うため、十字架に向かっていった、とは分からなかったのでしょうか。

昔、イエス様の時代には、奴隷という制度がありました。奴隷は人間だけれど、売り買いされてしまうのです。イエス様はみんなの命を、買い取るために、自分の命を売り渡されたのです。十字架の上で死ぬという形で。これは、大人でも理解するのに難しい、とっても難しいことですが、みなさん、どこか頭の隅にでも覚えておいてくださいね。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

37番

改訂125番

話してみよう

- ・イエス様が言われる杯とはなんでしょうか？
- ・ヤコブとヨハネは右と左に座りたいと言いましたが、どんな意味でしょうか？
- ・どうして他の十人は腹をたてたのでしょうか。二人が無理解だったからではありません。

やってみよう

イエスさまは神さまに仕え、人に仕えることをされました。にもかかわらず、十字架にかかられました。

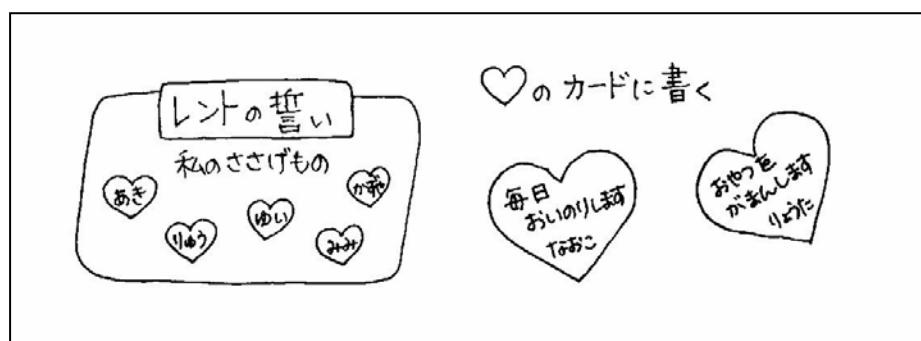
私にできるささげものを考えて、レントの期間をすごしましょう。

*また、教会の中で人に仕える奉仕活動は何かがあるか

社会福祉事業などクリスチャンがしているボランティア活動にも目を向け、仕えることの大切さとそこから得

る恵みについて話し合ってみましょう。(写真やパンフレットがあれば用いる)

レントが終わったら、自分のささげものがどれくらいできたかみんなで話し、神さまへの感謝の祈りをしましょう。



今週の聖句

この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる

ヨハネによる福音書 2章 19節

ねらい

受難の期節である事を頭においておく。

神の子、主イエス様が受難されたことを覚える。

『宮清め』をされた主イエス様の思いがどのようなものだったかと考える。

神殿を壊す 主イエスの体を破壊する、神殿を建て直す 主イエスの体を復元する、という形で、主イエスの受難と復活との関連を考える。

説教作成のポイント

- ・ 主イエスの「宮清め」というパフォーマンスの背景に、神の家であるはずの神殿が、祭司や貴族たちの商売の場となってしまっている事への強い批判がある。
- ・ 主イエスは、ご自身の命を投げ出して民を救うという使命感と共に、その命は、たとえ失われても、神の手によって再び与えられるという強い信仰を持っておられた。

豆知識

- ・ この「宮清め」の記事は、4つの福音書全部に出ているが、「縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし」など具体的に描かれているのはヨハネだけである。
- ・ 過ぎ越しの期節に、ユダヤ教では、各家で、家中にある汚れを見つけ出し、それを清める儀式を行う。神殿が神の家と考えれば、主イエスの「宮清め」という行為は、このユダヤの習慣の延長上に考えることもできる。
- ・ 四十六年間かかったのは、ヘロデ王の手による第3神殿である。この神殿は、最初にソロモン王により建設された後、パピロニア人により破壊され、それを民が再建した第2神殿も、ヘロデ王が新築した第3神殿も、ローマ軍の手によって破壊されつくす。この部分はその予言とも読めるところである。

説教

この子の名前はヨシヤ、これから、おじさんと一緒にエルサレムの神殿に、お供えをしにいきます。ヨシヤの両親が、二人とも病気なので、早く直るようにと、お祈りをしに行くのです。エルサレムの神殿では、いけにえを献げて、(あ、いけにえって、羊なんかを聖壇に献げて、そこで焼いて神様にお献げするんだ) 献金を納めて、たくさんお祈りして帰るんだ。病気がよくなるようになってね。

ヨシヤたちの村から、エルサレムは遠い。2日もかかるのだから、羊をつれていくのはとっても大変。そこで、神殿に行ってから、鳩を2羽買って、献げることにしました。

「この鳩にしようか。いくらだい」「2羽で銀貨1枚。これ以上まげられないよ」「高いなあ」「他の店じゃ、1羽がその値段だよ」「参ったな」

結局、銀貨1枚を払い、鳩2羽を買うことにしました。「さ、こんどは両替だ」「両替?」「ほら、このお金では、皇帝の肖像がついてるから、神殿には納められないんだよ。昔のお金に両替してから納めるんだけど、この両替手数料が、またうんと高いんだ」でも、仕方がないと言いながら、両替のお店に向かったとき、急に辺りが騒がしくなりました。

「あ、イエス様だ」ヨシヤの村にも来てくれたことがありました。そのイエス様がきょうは怖い顔

をしています。そして、縄のむちを振り回しています。あ、両替のお店をひっくり返した。あ、鳩のお店から鳩が逃げた。もうみんな大騒ぎです。

「わたしは悲しい」イエス様の声です。「ここは神の家、祈りの家のはずなのに、いつの間にか、盗賊の巣だ」ガラガラと大きな音がして、両替のテーブルがまたひっくり返されました。

「こんな事をして、どう責任を取るつもりだ？」誰かが、(きっと、神殿の偉い人です) 叫んでいます。でも、たいていの人たちは、面白がって見えています。

「神殿を壊して御覧なさい、3日で建て直しますから」イエス様が話しています。神殿を3日でなんて無理だよ。「この神殿は建てるのに、46年もかかっているんだぞ」誰かが大声で叫びました。

でも、ヨシヤは思い出していました。イエス様が、「神の国はみんなの中にある」「みんなの心が神の宮なんだ」と話されていたことを。そうか、イエス様は、人間の心のことをおっしゃっているのだ。そして、盗賊の巣になってしまった、こんな神殿よりも、もっと立派な神殿が、みんなの心の中にある、って言いたいのかな。そう思いました。

イエス様は、この後捕らえられ、十字架の上で殺されてしまいました。でも、3日の後に、復活されたそうです。そう、イエス様御自身が、神様のいらっしゃる所、神の神殿だったのですね。

分級への展開

さんびしよう

38番

改訂85番

話してみよう

* 讚美歌は「こどもさんびか」(日キ版)より

- ・神殿は何をするところでしょうか。また何が置いてあるのでしょうか？
- ・どうして神殿の中で牛や羊や鳩を売っていたのでしょうか？

やってみよう

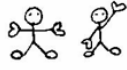








イエスさまは人間みんなのために十字架にかかられました。

そして復活され、天に昇られました。

プロテスタント教会では、十字架にはイエスさまはなく、十字架は復活のしるしなのです。死にうち勝たれるイエスさまから力をいただきましょう。

『十字架! わが力!』 ~ 友よ歌おうよ ~

自由に振り付けをして歌いましょう!

- 《例》
1. 十字架……両手をのびし左右、上下に広げる 
 - *わが力……カゴぶもつくるポーズ 
グロリアレールヤ……両手を頭上からヒラヒラさせながらおろす 
 2. *わが救い……足を1歩踏み出しながら両手を広げて
下から物をすくう動作 
 3. *わがほまれ……上衣を少し指先でつまんで得意気な顔をする 
 4. *わがごみ……手を組んで上を見上げて願うポーズ 
 5. *わがへいわ……へいわの“わ”で頭上で両手で輪をつくる 
 6. *わがいのち……胸のところで両手でハートをくくるポーズ 
 7. *わがすべて……手のひらを下にして右手を左から右へ動かす 

* “わが” というところは自分の胸のところを指でさす

今週の聖句

その独り子をお与えになったほどに、世を愛された
ヨハネによる福音書 3章 16節

ねらい

受難の期節である事を頭においておく。

神の子、主イエス様が受難されたことを覚える。

神の愛、『信じる者が一人も滅びないで』という神の思いを感じる。

信じないという事は、それ自体が、すでに裁かれているという事である。

説教作成のポイント

- ・ モーセが上げた蛇に関する記述は、民数記 21 : 9にある。ここから、蛇にかまれた者 罪におちいった者という類比をすると、人の子も上げられねばならない部分が理解しやすくなる。
- ・ 主イエスは、光を代表し、この世の闇、罪の世界に対立する、そういう書き方が、ヨハネ福音書では 1 : 5 など一つのテーマとなって流れている。

豆知識

- ・ 神の『愛』は、ギリシャ語ではアガペー。第一ヨハネ 4 : 16 で、『神は愛です』と書かれているように、神御自身の属性。一方、ヘブライ語では、ヘセッドで、心が隣り合うというニュアンスを持つ。
- ・ 信じる者 v s 信じない者と、はっきりした区別があるのは、ヨハネによる福音書の背景に、小アジア地方で、その頃に激しかったキリスト教迫害の嵐があるから。キリスト教徒は、信仰を貫いて死に直面するか、命を全うする代わりに妥協したり、棄教したりするかの二者択一をせまられていた。

説教

ヨセは迷っていました。せっかくイエス様という方に出会って、この方なら、自分の右足も治してくれるかもしれないと、思いだしてから、約2週間、それでも迷い続けました。

いままで、ヨセが出会った、預言者や奇跡をやる人たちは、初めのうちは調子が良いのだけれど、ヨセの足を見ると、『うーん、この類のものは難しいな』とか『これは直らないかもしれないよ』とか、急に弱気になり、自信がなくなってしまうのです。ヨセの足は、硬くなってまっすぐに伸びたまま、曲げることができない足でした。もう慣れっこにはなっていましたが、立ったり座ったりするのでもひと苦勞の要る足でした。おまけに、時々、思い出したように激しい痛みもあるのです。

イエス様が、どんな病気でも治すというのは有名でした。この間など、生まれつき目の見えない男子の子の、目を見えるようにしてあげたということでした。そのイエス様ならば、ヨセの右足だって、簡単に直してくれるかもしれません。ヨセが迷っているのは、でも、そうでもないかもしれない、イエス様だって、ヨセの足は直せないというかもしれないと心配だからです。あのイエス様にまで、『直せない』と言われたら、きっと、一生この不自由な足を引きずって生きていかなければならないのです。それはやはり絶望だし、ちょっと聞くのが怖いという感じでした。

でも、イエス様がもし治せる方だとしたら...、(そして、たぶん、治せる力をお持ちなんじゃないか、とヨセも感じてはいたのですが...) このチャンスを逃したら、取り返しがつきません。だから迷うのです。そうして、迷いに迷って、ヨセが出した結論は、やっぱり、一か八か、イエス様にこの足を見てもらおう、ということでした。それなのに、その時、イエス様は、ヨセの住む村から、どこかへと出発されて

いたのです。

そのイエス様が、エルサレムにいるという噂を聞きました。この村からエルサレムは、ヨセの足でも、5時間も歩けば行くことができます。『エルサレムに行こう、そうして、この足を治してもらうんだ』ヨセは必死で、エルサレムまでたどり着いたところなのです。

そのヨセが、また迷い始めました。肝心のイエス様が、捕まってしまったというのです。聞くところでは、ゴルゴタという丘の上で、十字架に磔になっているそうです。信じたくないことでした。それとも、やっぱり、イエス様も、いいかげんな治し屋で、悪いことをしてつかまったのでしょうか。それにしても、いきなり磔なんて、何をしたというのでしょうか。ヨセは会いに行くべきかどうか、まだ迷っていました。

『でもせっかくここまで来たのだし』そう思うと勇気が出ました。

ゴルゴタの丘は、すぐ分かりました。遠くからでも、3本の十字架がはっきりと見えたからです。その真ん中の十字架に、イエス様は磔になっていました。苦しそうに喘ぎながら、釘を打たれた両方の手首から痛々しく血を流していました。

こんな状態のイエス様に、右足を治してなんて頼めるわけがない。そう思って帰ろうとしたヨセの目が、イエス様の目と合いました。『足を... 治してもらいたいんだね。だ、... 大丈夫』イエス様の声が確かにそう聞き取れました。足の痛みが、スーッと引いていくのが感じられました。そして、生まれてはじめて、自由に曲がっている、というか、ガクッと右ひざをついている自分に気がつきました。

『ありがとう、イエス様』ヨセの言葉にうなづきながらも、十字架上のイエス様は気を失っていかれました。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は " こどもさんびか " (日キ版) より

5 番

改訂 4 9 番

話してみよう

- ・懐中電灯で何か物を照らしたら、そこには何が映るでしょうか。
- ・暗闇の中で懐中電灯を使うのは何のためでしょうか。(隠れているものを探すため)
- ・わたしたちは神さまや周りの人たちにどんなものをいただいているでしょうか。

やってみよう

今日のみことばを楽しく覚えましょう!

新聞でゲーム(みことばをさがせ!)

今日の聖句を紙に書きだしておく

新聞紙 1 枚、画用紙 1 枚、のり、はさみ、を各自渡す

1 人ずつ新聞紙の文字を切り抜いて、画用紙にはり、みことばを完成させる。そしてできあがったら声を出してみことばを読む。

*いくつかのグループ分けをして協力して早く完成させるゲームにしてもよいでしょう。

暗唱聖句

わたしは光として世に来た

ヨハネによる福音書 12章 46節

ねらい

- ・ 受難の期節である事を頭においておく。
- ・ イエス様がわたしたちを導く光として来られたことを覚えたい。
- ・ イエス様が裁くためではなく、救うために来られたことを覚えたい。
- ・ イエス様の言葉がお一人の思いの言葉ではなく、神さまの思いと同じところから生まれた言葉だと覚えたい。

説教作成のヒント

- ・ 前半部分はイエス様が多くのしるしを行ない、信じる者がいたことが書かれている。信じた者の中には敵対するファリサイ派の人々のメンバーも含まれていたが、他者を恐れて公に言い表せなかった。そこに人間の弱さがあることと言える。わたしたちは？
- ・ 後半はイエス様を見る者が神さまをも見ていること、つまりイエス様と神さまが一つであることを教えてくれる。しかもイエス様が自分勝手に語ったことは決してない。すべて神さまの御心に適う働き。イエス様に愛されることは神さまに愛されることである。
- ・ 心の目を見えなくしているのは神さまのみわざであることが書かれている。神さまの働きには「時」があることも覚えておきたい。だからこそ、委ねるのである。

豆知識

- ・ イザヤ書の言葉はイザヤ 6章 10節
- ・ 41節は「イザヤは神の栄光を見、イエスについて話した」とも訳せよう。

説教

トンネルや暗闇の中に取り残されてしまったらどうするでしょうか？その場にずっといるのはとっても怖いです。何とかそこから離れようとはしますが、真っ暗の中を歩きのは危険です。足元の石につまずいたりしてしまうかもしれません。下手をしたら崖に気づかずに落ちてしまうかもしれません。必要なのは明かり、光です。山を登る人たちは朝三時頃から上ることもありますが、暗いので必ずヘッドライトという懐中電灯をして、光が示してくれる道を歩いていきます。光が前を照らしているのに横に行ったり、後ろに下がったりする人はいません。光というのはわたしたちを導いてくれます。

今日、イエス様は「わたしは光としてこの世に来た」と言われます。それはわたしたちを導いてくださるために来られたということです。でも、いつもいつもわたしたちは暗闇の中にいるわけではないので、光がいつも必要なわけでもありません。そうするとイエス様は時々だけ必要なのでしょうか。そうではないのです。イエス様は光であり、言葉でもあります。いつもいつもわたしたちは考えながら生活しています。赤信号を見たら渡っていいかダメか考えることをします。困っている友だちがいたら、助けたらいいか、そのままにしておくか、それも考えるのです。聖書にある言葉や教会で教えてもらう言葉、父親や母親、周りの人たちが教えてくれる言葉や思いはわたしたちを導いてくれるものなのです。それはわたしたちが間違った方向に行かないように導くものです。光だけではなく、言葉もわたしたちを導いてくれます。

イエス様の言葉は神さまの言葉でもあります。イエス様に神さまは「御心に適う者」と言われ続けました。イエス様は神さまの心を知っておられ、受けとめておられる方なのです。だから、イエス様の言葉に従うことは神さまの言葉に従うことでもあります。

わたしたちはイエス様の言葉、神さまの言葉に従うことが大事です。でも、時々友だちの言葉や誘惑に負けてしまうこともあります。危ない道を友だちに誘われて通って帰ったりすることもあるでしょう。実はイエス様の言葉を聞いた人々の中にはイエス様の言葉が正しいと分かっていたのですが、みんなの前でイエス様の言葉を受け入れますというのが恥ずかしかったり、仲間外れにされないか心配して言えなかった人がいました。それは神さまよりも周りの人のことばかり見ていたからです。わたしたちは神さまを、イエス様はいつも見るようにしましょう。イエス様が正しいと知っているのですから、その言葉を受けいれて導かれていきましょう。

分級への展開

さんびしよう

* 讃美歌は「こどもさんびか」（日キ版）より

52番

改訂121番

話してみよう

- ・ わたしたちは成長する中でたくさんの言葉を知りました。それは全部自分で考えたものでしょうか。それとも教えてもらって自分の中に蓄えられたものでしょうか。
- ・ 暗闇の中に取り残された時、進むためには何が必要でしょうか？ 明かり、光が必要です。わたしたちを導く光としてイエス様は来てくださいました。
- ・ 心の目で見るとはどういうことでしょうか？ また、顔の目と心の目は違うものを見ているのでしょうか？

やってみよう

終了パーティーをしましょう

ろうそくの火はイエスさまを表しています。

今日はあえてろうそくの火を灯してみんなで囲みましょう。

そしてホットティーを飲みながら、1年を振り返りましょう。



マシュマロティー
シナモンティー
しょうがティー
ジャムティー
ミルクティー など

たのしかったこと

今年やりたいこと

また新学期にお会いしましょうという願いを込めて、ひとりひとりの名前をあげてお祈りしましょう。